

安全を絶対的な価値基軸に、徹底した原因究明と再発防止に取り組み
組織の総力を挙げて鉄道の「安全」と「信頼」を取り戻そう！

2024年7月24日に発生したJR山陽線・新山口駅構内における貨物列車脱線事故を契機に、国の運輸安全委員会による調査が進むなか、JR貨物広島車両所での輪軸組立作業の工程で、不正行為が行われていたことが判明しました。

さらに、同作業を実施するJR貨物川崎車両所とJR貨物輪西車両所においても、車輪組立時の圧入力が基準値を超過したまま、運行していたことが発覚しました。

現在、JR貨物労組は、職場現実を掴むために、不正行為に至る背景に何があったのか、職場の組合員とともに、二度と同じ過ちを犯すことのないよう、不退换の決意で原因究明に取り組んでいます。

しかし、輪軸組立作業における「いわゆる基準値超え」は、JRのみならず大手私鉄を含む鉄道会社全体の問題へと発展しています。

背景には、基準とされる数値管理について、厳格化されたものが存在しないことが挙げられます。圧入作業における数値管理の実態も、鉄道各社によってバラバラであり、その呼称も「基準値」「目安値」「JIS規格値」「当社で定める値」など異なり、安全管理上の問題です。

よって、「車輪組立時の圧入力数値のデータを書き換えた問題」と「圧入作業における数値管理のあり方」は混同すべきではなく、一部報道にある「すべてが不正行為」であったかの表現は、適切ではありません。

その意味では、これまでの慣例に頼ってきた作業実態のあり方についても、当該職場はもとより、組織全体の課題として、職場現実に踏まえた原因究明と再発防止にむけた運動が急務です。

くわえて、労働実態の背景に「コスト管理」や「効率化」が影響していなかったのか、検証も必要です。

言うまでもなく、私たちが提供する鉄道輸送の根幹は、「安全」が絶対的な価値基軸でなくてはなりません。責任追及や営利優先ではなく、「安全最優先」の職場風土を私たちが作り出し、企業風土へと高めていく努力が求められます。

JR総連は、今回の事象をJR貨物およびJR貨物労組だけの問題に切り縮めることなく、鉄道会社全体の問題と受け止めて、取り組みを強化していきます。

鉄道輸送に対する「安全」と「信頼」を組織一丸となって取り戻して行こうではありませんか。

2024年10月4日

全日本鉄道労働組合総連合会（JR総連）